

岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画に関する

要 望 書

令和3年1月29日

岸和田市長 永野耕平 殿  
教育委員会 教育長 大下達哉 殿

稲葉町内会

標記の件につきまして、早急な対処をしていただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

1. 要望内容

現在、岸和田市教育委員会において策定されております「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画（第1期）（案）」の【適正化の内容】①及び②についての設置計画内容について、稲葉町内会は反対することを表明し、新たに、現・山直南小学校所在地あるいは、その隣接区域に、新しく小中一貫校を新設することを要望します。

2. 要望の理由

(1) 第二次世界大戦後、新しい教育制度になって以来、山直南小学校の児童は、卒業と共に、①包近町・山直中町、②稲葉町・積川町という2つに分かれて中学校に行くという差別待遇を受けてきました。今回、長い差別の歴史を反省して、それが是正されるのかと思っていましたが、差別した経緯を、そのまま歴史的遺産の様に引き継ぐ案を出されたことは全く残念でならず、地元民からの要望で掲題の山直南地区での小中一貫校の新規設立を求めます。

(2) 教育委員会の案では自宅から小学校までの距離が遠すぎる。

教育委員会の出した案では、①包近町・山直中町の児童は、山直北小学

校に、②稲葉町・積川町・岸の丘町の児童は山滝中学校所在地に行くということですが、児童にとって歩行での通学には学校が遠すぎます。問題がある場合には、スクールバス等の手配をするということですが、スクールバスには、出発時刻等の制限があり、各家庭に負担が増すことは明らかであり、自治会として在住者の負担増を容認することはできません。

(3) 教育委員会の案では、現・山滝中学校所在地に小中一貫校を新設するとありますが、そこで予想される児童数は、現・山直南小学校区の児童数より少なくなり、現・山直南小学校を2分する必然性はありません。教育委員会が出した今回の適正規模案が容認されるのなら、我々は山直南小中一貫校の新規設立を要望します。

(4) 地域自治の継続性を求めるので、教育委員会の案に反対する。

山直南校区は、戦前より山直上村として独立性を保って存続してきました。

現在も、山直南校区として独立しており市民協議会を始め、老人クラブ、青年団、年番等の祭礼関係者も山直南校区として独立しています。今回の教育委員会の案は、山直南校区を分割し、名称をこの世から消滅させることにより、地域が持っていた歴史的継続性を、この世から抹殺してしまうことになる暴挙です。このような暴挙には地元住民として反対せざるを得ません。

(5) 山直北小学校の規模が拡大しすぎる。

教育委員会の案では、山直南小学校の廃校に伴い、①包近町・山直中町の児童を山直北小学校に入れることになっていますが、資料によると、その場合の児童数は、教育委員会の適正規模を超えることとなります。資料より先の将来の児童数は未知ですが、これは明らかに問題です。この点からも教育委員会の案には反対です。

(6) 現山滝小地区・東葛城小地区の児童について

教育委員会の案では、新・山滝小中一貫校に、現山滝小地区・東葛城小地区の児童が入ることですので、一言付け加えますと、山直南地区に新設を要望する小中一貫校に、現山滝小地区・東葛城小地区の児童が入るか否かは、山滝地区・東葛城地区の住民が決めることだと考えます。

以上